

● **使用材料・使用器具****使用材料**

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダF 20kg/缶
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン又はコテ
 模様塗り スタッコガン又はコテ
 模様付け AP-1ローラー+押えローラー

● **標準施工仕様**

(23°C、50%RH)

工程	使用材料	調合 (重量比)	所要量 (kg/m ²)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考	
					工程内	工程間		
下塗り	キクスイ プライマースーパーE	15kg 無希釈	0.1~0.19	1		3以上	エアレススプレー等	
基層塗り	グラナダF	20kg	0.8~1.0	1	-	6以上	リシンガン 口径:4~6mm 吹圧:0.5~0.6MPa コテ	
	清水	吹付け塗り						1~2kg
		コテ塗り						0~0.5kg
模様塗り	グラナダF	20kg	2.0~2.5	1	-		スタッコガン 口径:8~10mm 吹圧:0.4~0.6MPa コテ	
	清水	0~0.5kg						
パターン 付け	配り塗り後、AP-1ローラーで横方向に引起こし、更に、塗シンを付けた押えローラーで、意匠形成する。飾り目地を入れムラに見えない様にする。					追っかけ 模様付け	AP-1ローラー +押えローラー	
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。				-	直後又は 乾燥後		
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。				-	24以上		

● **標準施工要領**

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗り残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

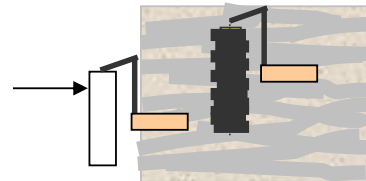
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようになる。
- ②主材は、定められた模様になるように指定された清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、水の計量は秤などを使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を配り塗りする。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。まず、模様配り塗り後AP-1ローラーで材料を引起こし、さらに追っかけで、塗シンを付けた押えローラーで押えて意匠を形成する。
- ②パターンは、特に希釈量やAP-1ローラーの転がしなどにより仕上がり感が多少異なるため、見本板などであらかじめ確認を行う。緩やかに転がすように、ローラーの使い方に注意する。
- ③表面皮張りが早いため、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤標準意匠は、横方向にほぼ平行に山脈様のローラーパターンを引起こし、さらに、尖り部を押えた意匠。
- ⑥壁全体の連続模様付けは避ける。
- ⑦パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。
- ⑧意匠の連続仕様は特に困難であり、縦・横2m*2m以内で装飾目地を取る。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。